

課題と原因	システム改修により対応可能なもの	制度として検討を要するもの	ワーキングでの意見
<p>○照会回数が増加傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次救急医療機関の対応力が低下 ・医療機関情報が不正確 <p>→ 照会の度に、患者情報を伝達する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応需入力の精度向上 ・二次救急医療機関の受入状況の共有（搬送実績システム） ・傷病者情報の共有化（傷病者情報共有システム） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各病院での空床確保対策 ・管制塔機能（受入調整コーディネータ） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(参考) 国庫補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管制塔機能を担う救急医療機関等運営事業 管制塔機能を担う病院と支援医療機関を設定 支援医療機関には空床確保経費を補助 ○救急患者受入コーディネーター事業 コーディネーター医師を病院へ配置し、搬送先医療機関の調整を行う ○救急患者退院コーディネーター事業 コーディネーター看護師等を病院へ配置し、急性期を脱した患者の円滑な転院を行う <p>○ 搬送困難事例受入医療機関支援事業 長時間搬送先が決まらない救急患者を一時的であっても断らずに受け入れる医療機関の確保を支援する</p> </div>	<p>(受入情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院側の応需入力をリアルタイムにするにはマンパワーが必要(医) ・病院側の入力でなく、受入状況で判断する方が实际的(医) ・受入状況が見られる機能は良い(消) ・搬送実績は、断られた情報も入らないと有効に機能しない(医) <p>(傷病者情報共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照会の都度、患者の前で何度も同じことを言うのを避けられると良い(消) ・デジタルペンなら現場の仕事量は増えないのでは(医) ・どの範囲(医療機関)まで情報共有をするのか(医・消) ・搬送票等の記載書類、様式の見直しも必要(医) <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入照会先を一本化し、医師による調整ができないか(医・消) ・一旦受け入れた後、転送先の病院を探すコーディネータがいれば楽(医) ・電波不感地帯対策が必要(消) ・現状よりもメリットがあるか疑問(医) ・故障時も考えて、システム利用を必須要件としないよう柔軟な対応が必要(消) ・救急患者の受入が病院のメリットになる仕組みづくりが必要(医)
<p>○管外搬送率が高い(→長時間搬送となる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の二次救急医療機関の対応力が低下 ・郡部では対応可能な医療機関が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送の間の容体変化への対応(動画伝送システム) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドクターカーの活用促進(医師による早期接触) 	<p>(動画伝送)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画や静止画が見られるのは良い(医・消) ・遠隔地からの搬送には、バイタルや顔色が見えるのは有用(医) ・特に夜間、動画に対応できるか不安(医) ・動画を見て断るケースも出るかもしれない(医)
<p>○救命救急センターへ患者が集中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次救急医療機関の対応力の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・三次救急医療機関の手術等の状況の可視化(応需情報システムの詳細化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次救急医療機関による応急処置と三次救急医療機関のバックアップ体制の強化 ・三次による応急的受入と、翌日の退院調整の推進(空床確保) 	<p>(三次との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次救急との連携が取れる仕組みは意義がある(医) ・三次の応需情報は、一旦受け入れた二次が三次を探す後送搬送時に使える(医) ・二次救急が一旦受けて、無理なら三次が確実に受けるようにすれば、二次も頑張れるのではないかと(医)
<p>○救急搬送患者のうち軽症患者が多い</p>	<p>(動画によるトリアージ)</p>	<p>救急車の適正利用広報</p>	
<p>○質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車内の患者画像や事故現場画像による、患者情報の早期把握。 ・口頭でなく、画像、データによる傷病者情報の正確な伝達 ・救急車両の位置情報の把握による、到着時刻の推測、搬送先の選定の参考情報 ・搬送時の傷病者情報と、診断後の情報のリンクによる、データの抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者状況の可視化 ・事故現場等の状況把握 ・バイタル情報の把握(動画伝送システム) ・正確な情報伝達(傷病者情報共有システム) ・救急車両の状況把握(位置情報システム) ・現状分析・事後検証(傷病者情報共有システム:要病院の追記) 		<p>(データの活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有できたうえで、データとして活用できるのは良い(消) ・収容書に病院側の判断を入れる形を取れば統計として利用できるのでは(消) <p>(その他の機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状から、考えられる病名が検索できる機能があると良い(消) ・服薬情報があれば良い(消)
<p>○搬送全件調査から見える課題</p> <p>(ワーキング当日に議論)</p>			